

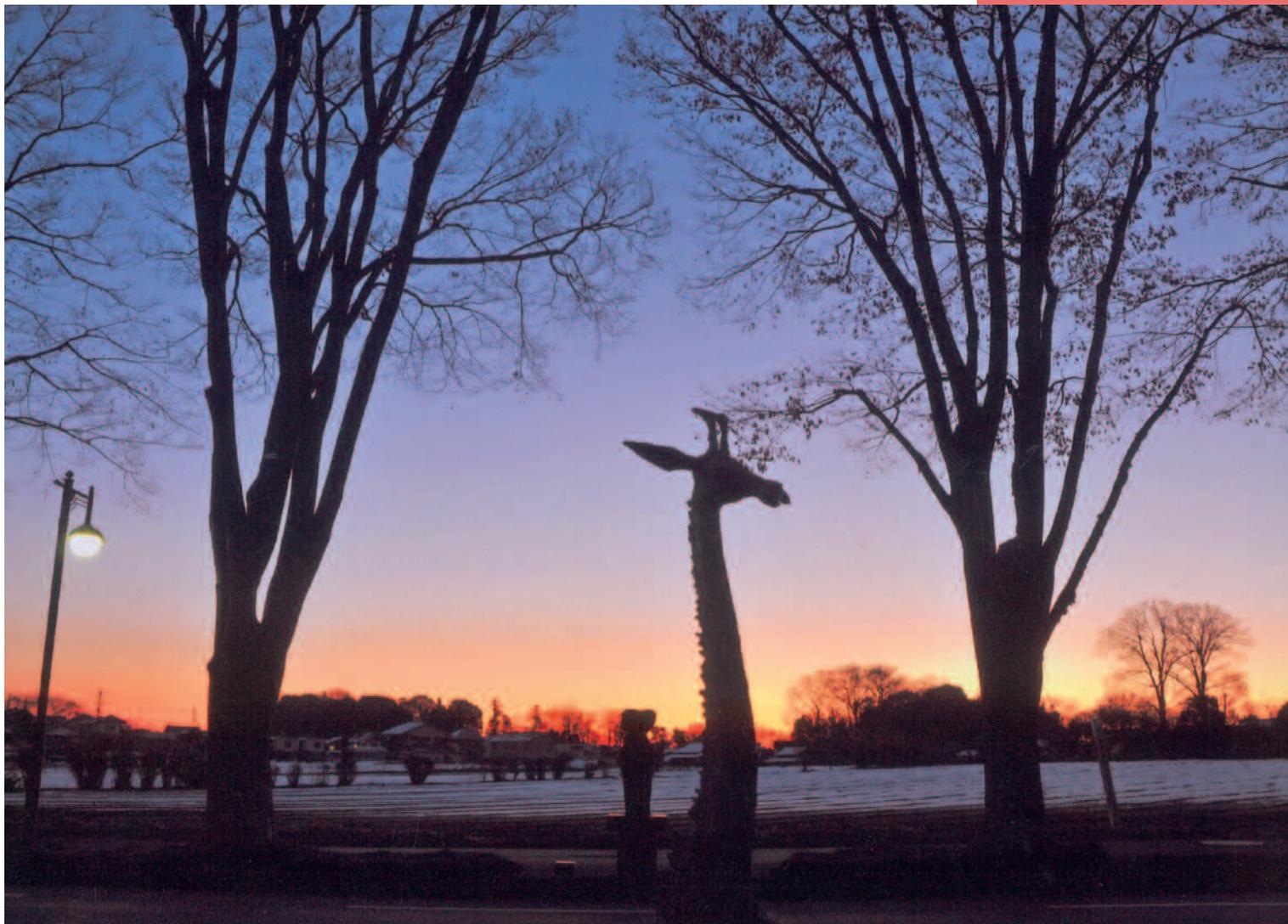
# ぐるり30

～自治調査会だより～

2014  
2

No. 005

[発行日]  
2014.2.1



【タイトル】黎明樺通 【撮影者】阪本 斉治（清瀬市） 【撮影場所】清瀬市

- ▶ シリーズ 多摩の魅力発見！第6回…………… 2
- ▶ シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介！…………… 3
- 第8回青ヶ島村
- ▶ オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト  
    体験型一般公開講座…………… 8
- ▶ 多摩交流センターだより
  - ・多摩発・遠隔生涯学習講座…………… 9
  - ・東京雑学大学講義案内…………… 9
- ・「多摩 市町村のあゆみ」の発行について(平成26年2月1日発行) …… 10
- ・会議室利用登録団体の方へ 手続きのお願い…………… 11
- ▶ 編集後記…………… 11
- ▶ とっておき特産物 第33回 瑞穂町…………… 12

Contents

2月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会

シリーズ

# 多摩の魅力発見!

第6回



多摩地域には、「知る人ぞ知る」というようなたくさんの魅力が隠れています。このシリーズでは、特産品などの製造所や加工所、また映画やドラマのロケ地など多摩地域に拠点があり、多摩地域の魅力を発信している地域資源に注目し、地域とのつながりや取り組みなどを取材し紹介します。

## 高津装飾美術

## (調布市)

高津装飾美術株式会社(以下、「高津装飾」という。)は、1918(大正7)年に京都市内で古物商として創業しました。当初は販売が主でしたが、京都で日本の活動映画が始まると、商品の小道具を貸し出すようになり、1931(昭和6)年に映画の小道具専門会社として発足しました。1934(昭和9)年には徐々に映画撮影が東京で行われるようになったことから調布市へ進出し、以来、映画のみならずテレビ、演劇、イベントなどに必要な小道具を取引先に貸し出し、幅広く装飾分野を担っています。

小道具と言っても様々なものを貸し出しており、タンスやテーブルといった大きな家具類から茶碗や箸などの細かい食器類まで、現代のドラマや劇で使用される物はもちろん、時代劇で使われる家具や小物、刀や甲冑類などの武器も種類を豊富にそろえ(中には大八車もあります!)、取引先からの様々な要望に応えるようにしているようです。特に時代劇といったいわゆる歴史関係で使用される小道具については、使用されていた事実と映像の間にギャップが生まれぬよう、十分に時代背景を考慮したうえで小道具を提供しています。

小道具の保管方法も様々です。一般的には倉庫に保管しますが、取扱いに注意が必要な漆塗りなどの商品は空調管理が徹底された特別な場所に保管されます。逆に、使い古したような状態で使う必要がある物については、あえて外に保管しておく物もあるようです。また、使用すると壊れることも多いため、適宜修復を行い、常に最適な状態で貸し出しができるように心がけているそうです。



▲倉庫の内部

今回、特別に、普段は入ることができない、小道具が保管されている倉庫内の一部を見せていただきました。内部は所狭しとたくさんの小道具が

並べられており、中には有名な時代劇で使用された物もありました。時代劇のみならず、昭和の高度経済成長期に一般家庭で使われた、懐かしの電化製品などに目が奪われました。

皆さんがよくご覧になるテレビや映画でも高津装飾の小道具が活躍しています。また、様々な地方の武者行列や歴史関連のイベントなどにも武器などの貸し出しを行っており、多摩地域においても調布市や八王子市、日野市などでも実績があるそうです。

高津装飾の主な取引先は、映画やテレビなどの装飾(実際にセットに飾り付けをする)担当の方が多いものの、一般の方にも小道具の貸し出しを行っており、その用途は様々です。

また、毎年、調布市内と府中市内の公立中学校から1校ずつ、職場体験の受け入れを行ったり、調布市内の私立中学校の社会科見学を受入れたりと地域の教育活動はもとより、チャリティーイベントなどの地域の行事に積極的に参加し、社会貢献にも力を入れているそうです。

取材に応じてくださった担当の方は、今後について「当社は長年、小道具の貸し出しを行ってきており、映画やテレビなどの担当の方には、『高津装飾に行けば、必要な小道具はまずそろろう。』というお墨付きをいただいています。今後も引き続き、テレビ、映画、演劇、イベントなど様々な場面において高津装飾の小道具を使っていただけるよう、装飾分野のトップを目指していきたい。」と強く語ってくださいました。

高津装飾美術株式会社

TEL 042-484-1161 URL <http://www.takatsu-web.co.jp/>

# シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

## 第8回 青ヶ島村

このシリーズでは、東京の島しょ地域の魅力をお伝えするため、島しょ地域における、まちの取り組みや観光資源、役場の概要、職員の方へのインタビューなどを紹介しています。第8回となる今回は、青ヶ島村を取り上げます。

※シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介! 第1回大島町、第2回御蔵島村、第3回神津島村、第4回利島村、第5回三宅村、第6回新島村、第7回八丈町の特集は、自治調査会ホームページ(「What's New?」294号、295号、299号、301号、「ぐるり39」1号、2号、4号)でご覧いただくことができます。

### 青ヶ島とは?

青ヶ島は、東京の都心から約360kmの海上に浮かぶ、有人島としては伊豆諸島最南端の島です。緯度としては九州の宮崎県とほぼ同じで、島全体が暖流の黒潮に包まれ、一年を通じて10～25℃と温暖な気候です。温暖湿潤な海洋性の気候ですが、青ヶ島の集落は標高250m以上にあるため、いったん島に上がれば、ほかの伊豆諸島の島々よりやや涼しく感じられます。また、湿度が年間平均85%と伊豆諸島のなかでも特別高いことが特徴です。

青ヶ島は、面積約6km<sup>2</sup>、周囲約9kmの小さな島ですが、世界でも珍しい二重のカルデラ構造をしており、その整った形は、まさに自然の芸術といえます。

カルデラの中央には丸山という内輪山があり、この丸山を取り囲んでいる外輪山の北西部分に、島の最高地点である大凸部(おおとんぶ・標高423m)があります。



▲青ヶ島全景



▲東京島しょ地域の概要

### 青ヶ島へのアクセス

青ヶ島へのアクセスは、直行便がないため八丈島を経由する必要があります。羽田空港から飛行機または竹芝桟橋から船で八丈島に渡り、その後、船かヘリコプターに乗り換えて青ヶ島を目指します。

船の場合、島の周囲が断崖絶壁に囲まれており、入り江や浜が少ないため波や風の影響を受けやすく、就航率は50～60%と低くなっています。

そのため、青ヶ島への移動は船よりヘリコプターのほうが安心ですが、座席数が9席しかないため、予約が必須となっています。予約は搭乗1ヶ月前の同一日(日曜日を除く。)から受け付けていますので、早めに予約したほうがよいでしょう。

～牛とかんもと神々の島～

# 青ヶ島村



## AOGASHIMA



### 今も人々に受け継がれる還住の精神

青ヶ島は、その特徴的な二重のカルデラ構造により、外輪山が台風などの暴風雨を防ぐ役割をしており、また、カルデラ内の土地は肥沃で大小二つの池もあったため、飢餓に苦しむこともあった近隣の八丈島や八丈小島（現在無人島）と比べて、食糧事情は恵まれていました。

しかし、1780（安永9）年から発生した火山活動により、人々の生活は一変し、1785（天明5）年3月10日の大噴火が島の歴史を決定的に変えてしまいました。猛烈な噴火による火山灰や噴石が畑や家屋に甚大な被害をあたえ、また、噴煙が島全体を包み込んだため、もはや青ヶ島で生活することは不可能となり、人々は八丈島へ避難することとなりました。しかし、当時の八丈島は大飢饉に見舞われており、八丈島の人々の生活も苦しい中での避難生活は、筆舌に尽くしがたいものでした。

この避難生活は、実に半世紀にもおよびました。その間、何度も青ヶ島へ帰島することを試みましたが、青ヶ島へ向かう船が遭難・難破したり、島に辿り着いたとしても、噴火の影響で水や物資が極度に不足していたりといった問題が山積しており、挑戦と挫折を繰り返す中で、次第に帰島する意欲も薄れていってしまいました。

そんな中、1817（文化14）年に青ヶ島の名主となった、佐々木次郎太夫が帰島のため奮励しました。帰島に対する強い意志と熱意をもち、綿密な計画をもとに人々と協力しながら、一つひとつ困難を克服していきました。

1824（文政7）年4月、青ヶ島の人々は、ついに故郷青ヶ島に帰島を果たしました。そして、約10年後の1835（天保6）年には、幕府による年貢の割合を決める検地が行われるまでに復興が進みました。

この青ヶ島の人々が、不屈の精神で苦難の末に帰島を果たしたことを「還住」という言葉で表し、その精神は、今も島の人々に受け継がれています。

その一つとして、八丈島と青ヶ島を結ぶ定期船が「還住丸」と名付けられていました（2014（平成26）年1月からは、引退した「還住丸」に替わり「あおがしま丸」が就航しています。）。



▲「青ヶ島のモーゼ」とも称される佐々木次郎太夫の像



▲定期船「還住丸」



▲「還住丸」引退の様子

空飛ぶ船？

青ヶ島で唯一の港である三寶港（青ヶ島港）は、断崖絶壁の岩の隙間になんとか船着き場を作ったような状態のため、船を停泊しておける場所がありません。そのため、船をクレーンで吊り上げ陸上に移動させ保管しています。船を使用するときは、再びクレーンで吊り上げ海に下ろします。

運が良ければ「空飛ぶ船」が見られるかも？▶



## シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

## 第8回&lt;青ヶ島村&gt;

## 村の概要(平成25年4月1日現在)

- \*位 置 都心から南南西に約360kmの海上に位置する島
- \*面 積 5.98km<sup>2</sup>(周囲約9km)
- \*人 口 163人 世帯数 105世帯
- \*歴 史 青ヶ島がはじめて歴史上に登場するのは15世紀に入ってからです。しかし、その内容は船の遭難などの海難事故の記録ばかり。当時から海上交通がいに困難であったかをしのばせます。

## 見所①(ひんぎゃ)

「ひんぎゃ」とは、「火の際(ヒノキワ)」が語源となっている青ヶ島の言葉で、火山の地熱蒸気が吹き出す噴気孔のことを指します。丸山周辺の池之沢では、いたるところで一年を通じて地熱蒸気が噴き出しており、電気の無い時代には、人々の暖房や料理に利用されていました。現在でも、この自然のエネルギーをサウナや製塩に利用しています。

## \*アクセス(船または飛行機)

- 海路 八丈島→青ヶ島 <伊豆諸島開発株式会社>  
「あおがしま丸」(約2時間45分)
  - 空路 (ヘリコプター) 八丈島空港→青ヶ島ヘリポート  
<東邦航空株式会社>「愛らんどシャトル」(約20分)
- ※青ヶ島へは都心からの直行便がないため、羽田空港から飛行機または竹芝桟橋から船で八丈島経由になります。



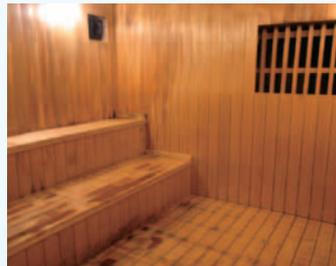
▲白い蒸気が「ひんぎゃ」の目印

ふれあい  
サウナ

地熱を利用したサウナで室温は約60℃!すでに脱衣所から熱気を感じます。館内にはジャグジーやシャワーも完備しています。



▲ふれあいサウナ



▲すぐに汗が噴き出てきます



▲シャワーで汗を流せます

## 製塩作業所

地熱蒸気と海水のみで作られる塩は、「ひんぎゃの塩」と呼ばれ、カルシウムが豊富でまろやかな味わいが特徴です。海水から塩になるまで、手作業で約4週間かけ作られています。



▲製塩作業所



▲できたばかりの「ひんぎゃの塩」



▲手塩にかけて作っています

## 地熱釜

地面から噴出する蒸気を利用したワイルドな蒸し釜です。卵やくさや、イモなどを入れるだけ



▲地熱釜



▲食材を入れるだけ



▲できあがり

で、準備完了!待っている間に、ふれあいサウナに入ったり製塩作業所を見学したりすれば、あっという間にできあがりです。

## 見所② (牛祭り)

古くから畜産で栄えてきた青ヶ島では、牛への感謝をこめて、毎年8月10日に「牛祭り」を開催しています。島外にいる村出身者もこの日に合わせて帰省してくるため、島内は一斉に賑やかになります。

牛の共進会(品評会)を中心に、相撲大会や90kgほどの丸石を肩まで持ち上げる力自慢、還住太鼓の演奏、花火の打ち上げ、全員参加の島踊りなど、盛りだくさんのイベントです。

かつて畜産が盛んだった頃は、牛相撲が行われていましたが、大切な牛を傷つけるのはもったいないと、人間が代わりに相撲を取るようになりました。



▲共進会の様子



▲白熱の相撲大会



▲迫力の力自慢



▲還住太鼓の演奏

## 来年はどんなデザイン?

牛祭りの実行委員会が作成するTシャツ(通称「牛T」)は、数量限定で毎年異なったデザインで作成されるため、根強いファンがいるといわれています。



## 幼いころから英才教育?



青ヶ島では、子どもから大人まで還住太鼓の練習が盛んに行われています。まだ太鼓を叩けないような子ども、お母さんの背中で拍子をとっています。

## 見所③ (絶景)

### 絶景その1

### 丸山と大凸部

青ヶ島を象徴するカルデラの内輪山である丸山は、椿が整然と植林されており、ギザギザ模様が特徴です。

この丸山を見下ろす大凸部からは、丸山とともに真っ青な太平洋のパノラマが広がっています。



### 絶景その2

### オオタニワタリ群生地

オオタニワタリは、南方系のシダの一種で「谷を渡る」という語源からきています。

地面だけでなく樹木や岩に着生する姿は、まるで東南アジアのジャングルのように見えます。



### 絶景その3

### 尾山展望公園と天然プラネタリウム

地球をイメージした青いタイル張りの円形モニュメントがある尾山展望公園は、晴れていれば、昼は八丈島や八丈小島を、夜は空一面に「星の海」を見ることができます。

特に、10月下旬～4月上旬にかけては、「カノーブス」という、南天の水平線ギリギリのところ姿を現す、とても珍しい星を見ることがもできます。



## 青ヶ島村役場(平成25年4月1日現在)

所在地 〒100-1701

東京都青ヶ島村無番地

町長 菊池 利光(きくち としみつ)

職員数 20人

財政 決算収支(普通会計)(平成24年度)  
歳入:1,300百万円 歳出:1,132百万円

主要施策 ・切葉集出荷施設建設  
・青ヶ島港の整備促進 ・幹線道路の整備



▲菊池利光村長



▲村役場庁舎外観

シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

第8回<青ヶ島村>

### 人口が国内最少の自治体!

青ヶ島村は、平成25年4月1日現在、人口が163人。国内で最も人口の少ない地方自治体となっています。

### 住所が無番地?

青ヶ島村は、住所が無番地となっているため、郵便物の宛先は「東京都青ヶ島村」と書けば、あとは「郵便番号」と「宛名」だけで届きます。

## 青ヶ島の特産

### 青酎(焼酎)

青ヶ島特産のかんも(サツマイモ)で造られる青酎は、同じ銘柄でも杜氏によって味が異なる不思議なお酒です。

最近では島外のサツマイモや麦をブレンドした青酎もあり、その味に幅が広がり、一度飲んだら癖になります。



### ひんぎゃの塩

ひんぎゃの地熱蒸気と太平洋の黒潮から生まれたひんぎゃの塩は、結晶の粒が大きく甘みがあります。料理はもちろん、青酎を飲みながら舐めるのもおすすめです。



### とびくん

青ヶ島で獲れたトビウオをひんぎゃの塩で味付けした薫製です。そのままちぎって食べてもおいしいですが、電子レンジであたためるとよりやわらかくなり、香りも楽しめます。青酎の肴にぴったりです。



## 役場職員インタビュー



青ヶ島村総務課  
かとう ゆか  
加藤 優花さん

平成23年入庁。現在は総務課で観光振興などに携わっている。

### 加藤さんが青ヶ島に来たきっかけは?

私は荒川区の出身で、都内で就職をしていたのですが、その会社が倒産してしまったので、次の仕事を探していました。その時、たまたま青ヶ島村役場の職員募集があることを知り、採用試験を受けました。

試験を受けるために青ヶ島に来てみると、雨と霧で周りが見えないくらい真っ白で、「すごいところだな…」と思いました。

### 普段の仕事内容は?

窓口での金銭出納のほか、観光振興、職員の福利厚生など、職員数が少ないため様々な業務を担当しています。

また、毎朝、防災無線で「あおがしま丸」の就航状況について放送をするため、当番制で担当を行っています。

### 青ヶ島を訪れる方へメッセージをお願いします!

私のイチオシは「満天の星空」です。天候次第ではありますが、空一面に「星の海」を見ることができたときの感動は、言葉では言い表せません。

また、牛祭りや釣りなどで青ヶ島に来る人は、リピーターが多いので、皆さんも一度島に来ていただければ、絶対好きになっていただけると思います。

皆さんの来島を心よりお待ちしております。

取材協力・写真提供/青ヶ島村



オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト

## 体験型一般公開講座

平成25年「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の一環として、地球温暖化防止や自然保護に対する意識を養い、都民の交流を通して環境に配慮した生活や行動を促すことを目的に、「体験型一般公開講座」を実施しました。

この講座は、都民を対象として、東京の自然を森林セラピーなどを通して体験・再発見したり、最先端省エネ技術や家庭でできる省エネなど、エネルギー問題のポイントを学んだりする事業です。先月号に引き続き、その実施結果を報告します。今月号は、平成25年11月から12月に実施した講座について紹介します。

### 《実施結果》

#### 日の出山荘で自然体験

日程 11月12日(火) 参加者 13名

日の出山荘とその周辺で森林環境学習、竹林の間伐、苗木ポット作りを体験しました。昼食に、山荘で地元の食材を使ったお弁当をいただき、その後お抹茶を体験しました。



▲竹林の間伐体験



▲苗木ポット作り

#### 町田市相原の里山ガイドウォーク

日程 11月16日(土) 参加者 28名

相原の里山で、歴史古道とゆかりの神社仏閣、公園といった約9kmの道程をガイド付きで歩きました。昼食は町田特製弁当をいただきました。



▲ガイドウォーク① (青木屋敷)



▲ガイドウォーク② (大日如来堂)

#### 野生動物が暮らせる森づくり体験

日程 11月23日(土) 参加者 5名

森林レンジャーと一緒に野生動物が暮らせる森を学び、実際に森づくりを体験しました。最後は秋川渓谷の瀬音の湯に浸かり、疲れを癒しました。



▲森林伐採体験



▲森林レンジャーとともに作業

#### 施設見学会～最先端省エネ施設見学と家庭でできる省エネを考える～

日程 12月4日(水) 参加者 28名

東京スカイツリータウン地域冷暖房施設とがすてなーに ガスの科学館を見学し、家庭でできる省エネ等について学びました。



▲科学館にて①



▲科学館にて②

### 《講座を通して》

東京の自然に実際に触れることや、施設見学を体験することは、参加者の皆さんにとって良い機会になったと思われま。このことは、参加者へのアンケートで「大変良かった・良かった」が98%と、とても多かったことからうかがえます。



## 多摩交流センターだより

インターネット  
放送による

# 多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催  
後援：武蔵野市教育委員会



### 2月・3月予定の講座案内

#### 120回

**日時** 平成26年2月13日(木) 午後2時30分から約1時間  
**題名** まちづくりは「学びネット」から～東大和の試み  
**講師** 堀江 幸夫 氏  
(東大和 市民ネットの会スタッフ)  
**内容** スマホやタブレットなどの情報機器や、ネットワーク環境の進歩が著しい。シニアにも使い勝手がよくなってきた。「市報」や「公民館だより」「ちらし」などのカミ情報から、ブログを利用した生涯学習の仲間づくりへ。わがまちでは、「市民ネット」のシニアたちが挑戦している。その経緯と現状を報告する。

#### 121回

**日時** 平成26年3月13日(木) 午後2時30分から約1時間  
**題名** 全国から注目される「いなぎICカレッジ」の現状  
**講師** 菅田 紀夫 氏(いなぎICカレッジ理事長)  
**内容** いなぎICカレッジは、稲城市生涯学習推進計画に基づいて、平成15年10月に稲城市教育委員会主催事業として設立され、10年が経過しました。税に頼らず、受講料による企画運営を20名のボランティア理事が担っています。ICカレッジの理念・これまでの発展経緯、実績やエピソードについてお話します。

- 受講料** 無料(ただし資料代100円) ○**サテライト会場** 武蔵野市かたらいの道
- 講座場所** 多摩交流センター 第2会議室(申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください)
- ライブ中継・VOD視聴について**

多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座視聴(ライブ中継)、過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

**問合せ先:** TEL 080-3427-9848(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

## 東京雑学大学

### 3月講義案内

(会員は受講料無料・会員外は3月13日(木)を除き、1回につき500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第929回	3月6日(木) 午後2時から	女性作家と従軍 ～林芙美子を中心に	岡田 孝子 氏 (帝京平成大学教授、NPO法人現代女性文化研究所代表理事)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第930回	3月13日(木) 午後2時30分から	全国から注目される 「いなぎICカレッジ」の現状	菅田 紀夫 氏 (いなぎICカレッジ理事長)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野市かたらいの道 (JR三鷹駅北口 徒歩3分)
第931回	3月20日(木) 午後2時から	忠臣蔵の真相～赤穂開城	吉田 豊 氏 (江戸文化研究者、生涯学習インストラクター)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
第932回	3月27日(木) 午後2時から	インタビューする心 ～教職員文芸誌の編集を通して	多田 統一 氏 (駿河台文学会会長、元全国教職員文芸会会長)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[詳細問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原)

# 『多摩 市町村のあゆみ』の発行について

(平成26年2月1日発行)

本年度は、多摩地域が神奈川県から東京府（東京都の前身）に移管されて120年目に当たります。これを記念して、調査会では、『多摩 市町村のあゆみ』と題する小冊子を発行することとしました。

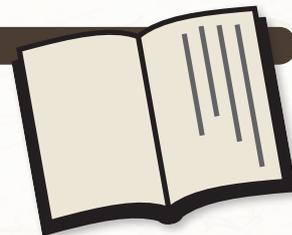
これまでも、多摩東京移管100年などを契機として、多摩地域の過去を回顧する書籍・写真集等が発行されていますが、これらはいずれも大部で専門的・本格的な書籍であり、読了するには相応の時間を必要としました。

そこで、120年の歴史を、主に地域の暮らしに関わる事柄と行政（地方自治体など）の変遷を対象として、「コンパクトで、誰もが手軽に読め、なるほどと納得できる読み物を提供する」という方針でまとめたのが本冊子です。

「成長・拡大」の時代から「成熟・持続」の時代への転換点を迎え、いかにして活力と魅力にあふれた多摩を守り育てていくのかが、ますます問われています。

そのためにも、今一度多摩120年の歴史を振り返って、その経緯と特徴を知ることが大切です。東京に対する「帰属」の問題、東京の「拡大」、多摩の「自立」をキーワードに、多摩地域の暮らしに関わる事柄と行政のあゆみを記述した本冊子が、今後の多摩のあるべき姿を考える一助となれば幸いです。

## 内 容



発行に寄せて

本書のねらい

市町村の移り変わり

### 第1章 神奈川県から東京府へ

- 1 多摩郡の分割と明治の大合併
- 2 東西か？ 南北か？
- 3 東京府移管問題

### 第2章 東京の拡大と多摩地域

- 1 別荘・行楽地・墓地の広がり
- 2 電力の普及と学園都市
- 3 都市計画のはじまりと  
東京緑地計画

### 第3章 都制編入運動と独立県構想

- 1 都制編入運動と「大東京市」
- 2 さまざまな独立県構想
- 3 都制の成立と多摩の市町村

### 第4章 多摩の空都化と戦後復興

- 1 立川飛行場の開設と軍関連施設の広がり
- 2 昭和前期の産業と行政
- 3 米軍基地と多摩

### 第5章 高度経済成長と多摩行政の変化

- 1 昭和の大合併と多摩
- 2 グリーンベルト反対闘争と多摩  
ニュータウンの建設
- 3 「三多摩」格差とその解消

### 終章 多摩の現在—未来に向けて—

参考文献

<発行>公益財団法人 東京市町村自治調査会 <編集・執筆>保坂一房 梅田定宏 天野宏司

※多摩交流センターのほか、各市町村の公共施設などで配布する予定です。

## 会議室利用登録団体の方へ 手続きのお願い

多摩交流センターの会議室利用登録団体の登録期限は、登録または更新してから3年度目の3月31日です。登録の更新を希望する場合、所定の書類を提出していただいております。該当する団体へ通知しますので、期日内に必ず手続きをお済ませください。

また、ロッカー・棚についても更新の時期となります。利用を希望する団体がロッカー・棚の数を越えた場合は抽選で利用団体を決定します。こちらについても通知しますので、利用を希望する団体は必ず手続きをお願いします。

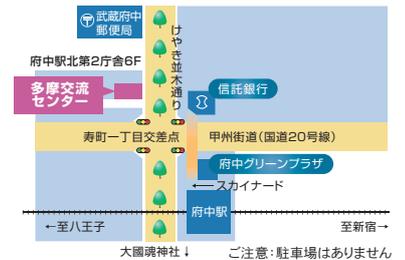
### 「多摩交流センターだより」の問合せ先

#### (公財) 東京市町村自治調査会多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127 Eメール tama001@tama-100.or.jp

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>



### 編集後記

- きさらぎ。寒い季節です。寒くて、衣(きぬ)を更に着るから「衣更着(きさらぎ)」という説もあるくらいです。そんな時期にもかかわらず、やけに周りが“熱い”なと思えば、そう、9日は都知事選。
  - 年末にああいう形で前知事が辞職されたので、この時期に選挙という異例の事態。誰が新知事になるかは分かりませんが、オリンピックの準備であったり、26年度予算編成といった作業を控えている時期だけに、速やかな「都政」の「回復」が望まれるところです。
  - とところで、そもそも「都政」って何だろうと考えたりします。東京都(制)ができたのが戦時中の1943(昭和18)年。東京都は、当時の東京府と東京市が、言わば「統合」されてできたのですが、どうやら構図としては、「東京市が東京府を飲み込んだ」というのが実態のようです。すなわち、東京都は、旧東京市のDNAを受け継いでいるといった側面があると言えます。
  - そんな東京都ですが、現在は、あくまで広域自治体という位置づけであり、ただし特別に、区部では市の事務(大都市事務)も行うということになっています。なので、都知事というのは、まず東京府知事であり、同時に東京市長でもあるということができそうです。「都市」に限定しているオリンピック開催地に東京都が立候補できるのも、この辺の事情があると思われる。
  - この東京都(制)の区域には当初から多摩地域も組み込まれ、それからちょうど70年(神奈川県から東京府に移管されてからは120年)が経過しました。この間、多摩地域は、良くも悪くも「都政」の影響を受けながら、人口400万人を擁するまでに発展してきました。すなわち、
- 「都政」とは、広域自治体としての事務(府県事務)と大都市事務(市の事務)とが合わさったものと捉えることができるのですが、もしこれまでに、旧東京市のDNAが色濃く出るようなことがあったとすれば、「都政」にも大都市事務寄りの色が出てしまった懸念も拭えないところです。
- 6年後には東京にオリンピックがやってきます。1964(昭和39)年の東京オリンピックの際は、その開催を控えて、広域事務のほか多くの大都市事務を抱え込んだ東京都の行政は麻痺状態に陥り、「東京都に都政なし」(当時の池田勇人首相)と言われる始末でした。当時とは状況も背景も異なるので問題ないと思いますが、今度のオリンピックではそうならないように、そして無事成功することを祈るばかりです。
  - さて、「熱い」といえば、選挙だけではなくありません。3日は節分の日ですが、この日、当調査会では、多摩東京移管120周年を記念し、「たまには多摩の話しを」と題したシンポジウムを小金井市民交流センターで開催します。また、これと期を同じくして、明治期以降の多摩の歴史をコンパクトにまとめた冊子「多摩 市町村のあゆみ」を発行します。いずれもご期待ください!!
  - そして14日は、バレンタインデー。今となっては全く縁のないイベントになってしまいましたが(悲)。また、16日には、伝統ある青梅マラソンが行われます。さらに、23日には、府中の東京競馬場で、これまた伝統レースの「フェブラリーステークス(GI)」が行われます。
  - いやあ2月は熱い!! 多摩が熱い!!!

(K.A.)

# とっておき特産物

## 第33回 瑞穂町

### みずほ育ちのシクラメン

都内生産量第1位(平成25年3月発行、平成23年産東京都農作物生産状況調査)を誇るシクラメンは、最盛期には栽培ハウスいっぱいに花が咲きます。

生産直売だから新鮮で長持ち。岩蔵街道沿いには6軒のハウスがあり、通称シクラメン街道と呼ばれています。

最盛期となる11月に販売開始となります。生産者により様々な花がありますので、ハウスをめぐりお気に入りの一鉢を見つけてください。



### 東京みずほブランド

町内で生産又は製造される食品、工芸品、農産物などをみずほブランドとして認定し、広く宣伝することで、町内産業の振興と、郷土愛の精神及び町民意識の高揚を図ることを目的としています。

平成24年度から認定を開始し、現在18品目20事業者が認定されています。

作ったご本人が販売していますので、商品への熱い思いを聞きに是非お店にお立ち寄りください。

●お店や販売情報の詳細は「いってんべえ〜みずほ(瑞穂町観光情報サイト)」まで。

URL <http://www.ittenbee-tokyomizuho.jp/>

記事、写真提供：瑞穂町都市整備部産業課  
TEL 042-557-7633

